

禪と水墨画の接点

満 柏

禪が水墨画に大きいな影響を与えたと言われる。多くの学者がそれを論じたが、中では鈴木大拙の『禪と日本文化』がもっとも有名であろう。氏の結論によると、禪の精神と水墨画の精神とは一致する、その精神は超越性と孤絶性である。また氏は、禪の悟りと水墨画の精神がともに直観的な方法によるため、水墨画は禪によって掘りあてたもの、と断言した。しかし、氏は、禪の宗教性の聖的な一面のみを強調して、禪の俗的な一面を考えてなかった。実際、禪の思想は極めて現実的で、俗的な面も無視できない。有名な禅語「日々是好日」で表したように、禪は現実を肯定しており、生活そのものを修業の一部としたのである。一方、氏は、日本文化にわび、さびおよび同様な特徴しか認めなかった。これも片寄った認識と言えよう。たしかに、桂離宮のようなわび、さびの美が好まれたが、東照宮や金閣寺のような絢爛たる美も日本人に愛されたのである。相反する様式が同時に存在するのは日本文化について特筆すべき点である。ゆえに、禪と水墨画の接点を考える際、両者を正確に把握する必要がある。

現実主義は中国の伝統思想の特徴の一つである。仏教は、中国に伝来してから、それを多く吸収したのである。そのため、仏教は現実的、実践的になり、現世を重んじたのである。禪における実践性、直観性は、もっとも中国的であると思われる。「行、住、座、臥皆禪定」の言葉が表すように、現実への肯定的な考えが、禪宗の思想の中を貫いている。であるからこそ、禪は、宗教の聖なる教義を俗の領域へ広げ、芸術への寄与が可能となったと言えるのである。

禪宗は、仏教の一宗派として、当然「空」観を根本義とする。禪にとって、世界の本質と世界の諸現象との関係は、「空即是色、色即是空」の一言に尽きる。つまり、世界は実在せず、「空」である。物質的現象も実体のない「色」であり、幻色である。実在しないものへのこだわりは無意味である。伝統水墨画が、自然の色と形、自然外貌への模倣を下位的なものに見なすのは同じ理由による。これは、明らかに禪の世界観と一致したのである。ゆえに禪は水墨画の認識論に哲学的根拠を与えたと言えよう。つまり、「空」と「色」の関係は、禪と美術の最も重要な接点といえるのである。

禪の思想の中に、「即心是仏」という言葉がある、禪は仏が人間のうちに内在することを主張し、人間の心のあるべきさまを明らかにすることを説いた。これは禪が心の存在を認めたことであり、禪が水墨画に影響を与える所以になるものであろう。芸術は、心を表すものであり、感情を表現するものであるからだ。禪は別名「伝心宗」であり、もっとも「心」を重視する仏教の一宗派だ。「以心伝心」は禪の代表的な考えの一つであり、水墨画において、これと似たような考えに、「写意」という言葉がある。これは、絵画を通して対象の精神や画家の感情を伝えることを意味するもので、禪のそれと通じる。

禅の認識論は水墨画の「写意」の理由を裏づけたのである。仏教は、人は事物の一部しか認識することができないと考え、禅は、現象界のすべてを把握できないなら、事物の心に迫るべきだと説く。ゆえに「写意」も「伝心」もともに水墨画の目標となる。蘇軾の「画を善くするものは、意を画きてその形を画かず」は、水墨画の精神を表した言葉である。「以心伝心」の主張があるからこそ、水墨画は、「形似」（形を似せること）を追求せず、「神似」（精神を描くこと）を求め、その結果において、大きいな表現の自由を獲得したのである。

「以心伝心」の理想的境地として、江戸時代の禅僧江月が「仏を画かば即心成仏、花を画かば伝心花と作る。」と言い、続けて「梅を描いたら、花だけではなくその香りまで描くべきで、滝を描いたら、水の流れる音まで伝えなければならない」と述べる。このような水墨画であれば、水墨画々論にいう「神品」の位に到達することであろう。

禅は、悟りの達成には無心の状態を勧める。無心と言うのは、現象世界に惑わず、純粋な状態を保つ心である。それは、水墨画創作ときの心のあり方でもある。水墨画の無心とは、守神専一、精思澄慮、去欲脱塵などの心のあり方である。つまり、画家は、意図的に効果を追求せず、技巧を考えずに描くことを意味する。禅師は無心になることによって、現象の世界と心と一体となることができ、同じことが画家にも言える。対象の「心」を正確に捉えるため、画家は自我の「心」を忘れ、「無心」の状態になることで、「以心伝心」が実現できる。古代の画家は、無心を重要な方法として、実践したのである。北宋の範寛は、山林の間に終日危坐し、山の全容を心の中に入れ、その意趣を求めたと言う話がある。

以上のように、禅は、水墨画創作の、方法論においても心のあり方に関しても、的確な示唆を与えた。しかし、禅の思想が、水墨画の方法論に哲学的な根拠を寄与したとはいえ、水墨画の考え方は、必ず禅の思想を受けてから形成された、と断言することはできない。それより、禅の思想と水墨画の思想は、共に中国の伝統的な思想の土壌に芽生えたのもであると、言ったほうが正しい。水墨画が禅と共に日本に伝来したことを考え、また、禅僧が水墨画の主な担い手だったことも顧慮すれば、禅は日本水墨画に与えた影響は中国以上であろう。